

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2025 年 6 月 26 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 国際高等教育院

職名・学年 講師

氏名 DANIEL MILNE

助成の種類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	Association of Asian Studies in Asia (Kathmandu)			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	New 'wars in the 'old capital': Transnational memory and Kyoto's modern memorial landscape.			
開催場所	ネパール(カトマンズ)			
渡航期間	2025 年 5 月 30 日 ～ 2025年 6月 7日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 (<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000 円		
	使用した助成金額	150,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)	
		航空運賃	150,000 円	
		宿泊費		
		滞在費(日当)		
学会参加費				
その他				
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 助成金をありがとうございました。おかげさまで、この重要な海外学会に参加することができました。感想としては、ネパールのように距離がある行き先の場合、航空券が高額にあることもあるので、15万円以上を支給対象としていただけるとより助かると感じました。			

成果報告書および成果の概要は、Excel・Wordファイル(印鑑不要)で info@kyodai-zaidan.or.jp 宛、メール送信して下さい。

成果の概要／報告者名

ダニエル ミルン (Daniel MILNE) 京都大学国際高等教育院

このセミナーに参加したことで、三つの大きな成果を得ることができました。第一に、自身が登壇したパネルでの研究者との協働の深化、第二に、アジア地域の研究者との交流、そして第三に、自身の研究成果の発表とフィードバックの獲得です。

まず、私の発表「『新しい』戦争と『古都』：トランスナショナルな記憶と京都の近代的慰霊空間」は、日本の古都における近代化と遺産化をテーマとするパネルの一部として、海外（デンマークおよびベルギー）からの発表者とともに行いました。パネルでの発表のみならず、会期中を通じた議論を通して、これらの研究者との連携を深めることができました。今後は、今夏に日本で再会し、世界各地の遺産都市に関心を持つ研究者を集めた科研費申請を行う予定です。

次に、このセミナーを通じて、ネパールおよび南アジア、東南アジア、東アジアの研究者と交流することができました。これらの地域の多くの研究者は、日本への渡航が経済的に難しい状況にあるため、このような国際会議は、彼らと直接つながりを持つ数少ない機会となっています。彼らからは、それぞれの国における遺産都市の状況を学ぶことができ、今後共同研究を進めていく計画も立ち上がりつつあります。

第三に、近年取り組んでいる京都における戦争遺産に関する研究成果を発表することができ、多くの聴衆からのフィードバックを得て、研究をさらに深めるきっかけとなりました。たとえば、関連文献や遺産研究における新しい理論を紹介していただいたほか、重要なご指摘や批判もいただき、大変有意義な機会となりました。

本研究活動への財政的ご支援に、心より感謝申し上げます。